

2年間の研修を 振り返って

本学大学病院
総合診療科

齋藤 涼佳
(医71・令5卒)



学生時代に初期研修の話になると「たすきがけ研修は大学病院の研修、市中病院の研修を“いいとこどり”できる」と聞かされたものでしたが、初期研修の濃密な2年間の思い返してみると、正しくその通りの日々を過ごさせていただいたように感じます。私は、1年目は横浜市立みなと赤十字病院、2年目は東京医科歯科大学病院改め東京科学大学病院で初期研修をさせていただきました。

1年目の横浜市立みなと赤十字病院では、医学知識はもちろんのこと、診察技法のイロハから採血などの基本的な手技、超音波といった検査技術、挿管を含む緊急性の高い患者の対応まで、医師として仕事をする上での基礎を教えていただきました。特に救急外来では、毎日たくさんの患者様を診察する環境に恵まれ、自分自身の知識や技術不足と向きあう機会が多くあり、上級医の先生方にも熱心に教えていただいたように思います。

2年目の東京科学大学病院では、志望科での診療や専門的な症例を経験させていただきました。診療チームの一員として役割を果たすことがより強く求められ、質の高い研修をさせていただいたように思います。また地域研修では、島根県の公立邑智病院に派遣いただき、2か月間にわたり地域医療に携わることができました。

2年間を通じ、地域研修を合わせれば3病院での研修を経験させていただき、学ぶことの多い初期研修であったと感じます。今後もひとりの医師として、更に研鑽を重ねていければと思います。最後になりますが、この場をお借りして、初期研修に携わってくださった全ての方々に深く感謝を申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。